

## 近くてなつかしい昭和展 ―夢・希望・未来を見つめた日々―



今、なぜ昭和なのか。それは「豊かでなくとも温かかった時代」、「明日への希望と活力にあふれた時代」だったから。

昭和から平成の時代となり 20 年、戦後の焼け跡から復興をとげ現在の礎を築いた昭和 30 年代～40 年代の高度経済成長期をふりかえったり、なつかしんだりする「昭和レトロ」ブームが起こっています。右肩上がりの経済のなか、道路やダム、公共施設などが次々と整備され、人々はこぞって、三種の神器と呼ばれる電化製品や耐久消費財などを買い揃え、物質的に豊かな時代を迎えました。またテレビや漫画・雑誌などマスメディアの発達、文化の大衆化をもたらし、国民は同じ出来事や流行、品物などを共有するようになりました。

本展では、昭和 30 年代のどこかなつかしい町並みを再現し、当時の茶の間や駄菓子屋などを体感します。また、香川の戦後のできごとをふりかえるとともに、県内で使われた電化製品やおもちゃ、写真などで戦後 40 年をたどります。

ちょっとなつかしい昭和の風景やくらしを見て、大人の方々は忘れていた古い記憶を思い出し、また子どもたちは戦後の大きな変化を感じとり、現在の私たちのくらしを考える機会としていただければ幸いです。

(平成 21 年 香川県立ミュージアム 特別展から)

(7101167687)